

平成八年九月二十八日 和敬塾フォーラム

「クラーク先生の超勉強法」

多摩大学学長 グレゴリー・クラーク先生
G R E G O R Y C L A R K

第1部 基調講演

■司会

皆さん、こんにちは。本日は多数のご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

これより、和敬塾フォーラム『クラーク先生の超勉強法』を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます、石橋廣紀です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、多摩大学学長グレゴリー・クラーク先生のご入場です。皆様拍手でお迎えください。

クラーク先生の基調講演に先立ちまして、川井祐介より先生のご紹介をさせていただきます。

■川井

それでは、多摩大学学長グレゴリー・クラーク先生のご紹介をさせていただきます。どうぞ、お手元のパンフレットをご覧ください。先生は、

現在多摩大学の学長として、また、アジア経済研究所開発スクール学長として、ご活躍されております。

多摩大学は、ベンチャー経営者育成に熱心なことで知られていますが、先生の、外交官、新聞記者、上智大学比較文学部教授として、学部創設当初より十一年間の国内・外にわたり積極的に活動された実績など、幅広い経験と斬新な発想が高く評価され、昨年、同大学の学長に就任なさいました。このことは、学会、産業界に新風を巻き起こす期待の存在として、マスコミを通じてニュースになりました。

先生は、パンフレットにもございますように、一九三六年にイギリスでお生まれになりました。その後、オーストラリアで育ちになりました。私たちにとりましては、驚くべきことなのですが、十六歳でイギリスのオックスフォード大学に入學されておられます。そして大学時代には、地理学と民族学を専攻されました。卒業後、オーストラリア外務省に入省され、香港駐在・中

国担当官、旧ソ連の駐ソ大使館に一等書記官として勤務されました。その後、オーストラリア国立大学院では、経済学を専攻されています。このあたりが、私たちに与ってはポイントでなかるうか、と思います。

また、日本国内でも、通産省、労働省、法務省などの省庁の主要委員会でご活躍されたことは、ご存じの通りです。このように、先生は、世界を渡り歩いてこられ、異文化交流をその体と心でもって体現してこられた方ではないかと思えます。そのような方のお話を学生の間に聞けるということは、とても贅沢なことでも有り難いことだと思えます。このフォーラムが、学生にとって、一つの世界の扉を開く鍵になればとてもよいのではないかと思います。以上、簡単ではございますが、クラーク先生のご紹介を終わりたいと思えます。

では、クラーク先生、よろしくお願いたします。

■先生

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただいたように、多摩大学のクラークです。

今日は、お招きいただきまして、本当にありがとうございます。和敬塾に関しては、ずっと前からいろいろ噂を耳にしていましたので、ぜひ、現実に見たいと思っていたのです。息子も連れてきました。来年、早稲田大学に入りたいと言っていますので、塾生になれば、なおよいと思います。

今日の話のテーマは『超勉強法』ですね。私を選んでテーマではないのですが、少し困っています。なぜなら『超勉強法』はありません。『勉強法』だけです。勉強のやり方は、さまざまなんです。あとは目的によります。

日本ではある特定のやり方がありますが、私のやり方はそれとは少し違ったやり方なんです。いま、多摩大学の学長になって一年しかたっていないんですけども、いろいろなことろだんだんとわかってきました。

それは、私の勉強の哲学と日本の学生の哲学には、かなり差が出てきて、その差を埋めるために、これからのいろいろと工夫とか実験を学生にやらせていきたいんです。その内容について皆様の前で発表させていただいて、後ほど、ご意見やコメントを聞きたいんです。と言うのは、勉強する上で、一番基礎的、一番大事なボ

イントは、英語で、こう言われているんです。*“Never believe anyone over thirty.”*この意味が解りますか。「三十歳を越えた人の話は、絶対信じるな」ということです。

なぜなら、我々の世代は間違いだらけなんです。経済、外交、社会とか。これは、学問も含めてなのです。先ほどのご紹介の中にもありましたが、私は、オックスフォード大学に、十六歳で入りました。この時は「すごいな」と言われましたが、これは、全然大したことではないんです。コネで入ったのです。

父は、有名な経済学者で、オックスフォード大学の教授だから、息子として入れたのです。ここで私は、地理学を学びました。その時、ある学者から「プレート・テクトニクス」ということを聞かされました。プレートは、地球の地殻です。地殻は動いています。このことは、今では常識で、全部説明できるでしょう。でも、当時、その先生は、みんなに笑われたんです。しかし、世界の地図を見ると、この地殻が動くということは明らかなことだったので。火山あるいは海の中の深い海溝の形を思い出してください。明らかに何か異常を覚えるんですけども、その説を唱えた先生は、笑われてしまったんです。逆に、父は経済学、私も経済学なんですけれども、私が学校で、あるいはその後勉強した説は、ほとんど間違っていたんです。今

でも流行っている学説は間違いだらけですよ。だから、自分自身で勉強しなくてはダメです。自分自身を信じられなくてはいけないんです。他の人の意見は大いに聞いてください。でも、絶対に信じないようにしてほしいのです。

私は、大学で比較文化を教えています。私は、授業のスタート時点でちゃんと学生に言っているんです。「私は、日本の文化と外国の文化の違いについて、一つの学説を持っています」と。もし、皆さんが興味があれば、この学説について後で説明させていただきます。

でも、これは一つの説にすぎません。それで期末になって学生に論文を書いてもらう。私の説を聞いて、他の人の説も勉強して、結論として「やっぱり、クラークの説は正しい」として、全部きれいに書ければ、百点満点。しかし、同じように勉強して、良く書いて「クラークの説は間違っている」とちゃんと論証してくれる、百二十点満点です。そういう調子でやっています。疑うこと、これが、まず勉強法の一つです。

しかし、何よりも、勉強の哲学として申しあげれば「自分自身で勉強しなさい」ということです。私は多摩大学に入っているいろいろと感心しました。前の学長のおかげでいろいろと新しい学習法が導入されています。まず、先生方が素人です。授業のために準備をしなくてはなりません。

せん。細かく前もって、学生に資料を持たせなくてはいけないのです。後は、勉強しないと退学勧告です。これはあまり使っていないのですけれど。しかし、原則としてはそうなります。もちろん、先生は点数を与えて学生を評価します。学生も先生を評価します。アメリカではこれは常識なんですけれど、日本ではあまりやっていません。それを後で公表します。

また多摩大学では、先生たちは休講できない。私のもう一人の息子は、早稲田ではない、ある有名大学に通っています。彼の話を聞くと、本当に日本の大学教育は滅茶苦茶です。

先生たちは、平気で出席しないんです。先生が出席しなければ、学生はどうするのでしょうか。ために埼玉県や千葉県から先生の講義を受けるために来ているのに、先生がいないのです。それで授業はどういうふうにやるんですか？そこで、先生たちと学生たちの「陰謀」になったのです。やり方としては「私のこの本や、記事を読んで内容をきちんと覚えてくれれば、百点満点」といった具合です。まあまあ、みんないい子だからもちろんパスします。しかし、これは教育ではないですね。

もう一つ、早稲田はどうか判りませんが、先生のノートは、誰かがみんなノートを集めて、印刷して大学の近くの本屋さんで販売する。そして、試験の前の晩、そのノートを買って読ん

で試験に臨むのです。これはひどいものです。とにかく、多摩大学の先生は休講が出来ません。しかし、一つだけ抜けています。学生は「休講」出来るんです。

私は、学生にとっても同情しています。私も、オックスフォード大学で三年間、ほとんど講義を受けなかったのです。完全にさぼっていたのです。しかし、オックスフォードの場合は、もう一つの学習方法があるのです。授業に出ない場合は、毎週決まった本を何冊か読んで毎週論文を書かなくてはなりません。そして、先生と会って、先生の前で論文を読まなくてはならないのです。それで、先生の批判を受けるのです。毎週です。これは、すばらしい方法だと思います。

自己管理です。自分自身を管理しなくてはなりません。勉強しないと、良い論文を書かないと、先生の前で変な論文を読むのは自分の恥になつてしまいます。だから、これからの多摩大学では、学期のスタート時点で学生に選択肢を与えるんです。毎週出席するか、それとも代わりの方法を選ぶかどうかの。

それともう一つ、活字離れの問題があります。日本では深刻な問題です。うちの学校では、毎週出席することを選んだ場合、しかし、毎週決まって宿題もあるんです。論文や記事、あるいは本の半分とか三分の一を読んで、それをもと

に、小テストをします。宿題と前の授業に関してのテストです。その点数は、毎週出席すれば、小テストを総合してA・B・C・Dとなります。優・良・可ではなくてA・B・C・Dです。これからは、A・A⁻・B⁺・B……と、細かく点数を決めるんです。アメリカや、その他の諸外国のように。そうでもしなければ、学生は出席しないのです。

それがいやであれば、出席しなくても結構です。しかしそれならば、こういった本を何冊も読まなくてはなりません。月に一回、先生と会わなくてはなりません。その上で、期末テストも受けなければなりません。どうぞ、選んでください。あなたは忙しい。アルバイトや彼女のこととか。それならば、どうぞ、授業には出席しなくても結構です。そのかわり、出席しなければこういうふうにしなくてはならないのです。この方式を来期から導入しようと思ったのですが、皆さんはどうお考えになりますか。

しかし、その中で一つの哲学があるのです。自分自身が、自主的に勉強しなくてはならないのです。今年は、ご存じのように日本の大学教育がかなり話題になりました。最近では、教育改革の中心の問題です。ここの敷地は以前、細川家の土地でしたが、先日、細川前首相にお会いした時「今、政策として、何を一番取り上げるべきか」と聞きますと「教育改革です。早く

改革しなければ、日本の将来はない」と、そこまで熱心に教育問題を考えています。細川さんだけではなくて、財界も、経団連も、同友会も、みんな委員会を作ってこれからの大学教育を考えています。

特に、経団連は熱心に取り組んでいます。私も何かの理由で全部の委員会のメンバーになりました。それで、経団連は、毎月集まって、トップと討論する朝食会を行っています。真剣に一年くらい考え続けて、最近、報告書が出来ました。

そこでも熱心にやっていますが、本当に大学教育の問題点が判っているのかどうか疑問です。ここでの問題意識は、大学の入学試験問題に集中しているんです。こういう問題は良くない、学生がかわいそうだななどということ以外にも、変な人が有名大学に入れてしまうとか、逆に、優秀な人が有名大学に入れないとか。よって、試験の内容を変えなくてはいけない、面接や、その人の性格、人柄をもっと重視すべきである、といった議論はよくありますね。でも、これは二次的、三次的な問題なんです。

問題は、例の学歴社会なんです。よい大学に入らないと社会の中で評価されない、すなわちよい会社に就職できないのです。私は、あの委員会でさんざん言われたのです。大学教育は滅茶苦茶だ。先生たちは責任感もないし、古くさ

い先生は二十年間くらいいつも毎年同じノートを棒読みして、この本を買いなさいとか言っている。学生は居眠りや私語ばかりしている。

特に任期制度を導入しなさいという意見があります。任期制度というのは、非常に微妙な問題です。アメリカでも先生の任期制度、契約制度は、いろいろと問題があります。

とにかく、問題は学歴社会、より正確には「学歴社会」でなく「学校名社会」です。これを直さなくてはなりません。もちろん、頭のいい学生は、エリート大学、優秀な大学に入りたいと思っっています。アメリカでも、イギリスでも同じです。イギリスでは、エリート大学は、二つだけです。オックスフォードとケンブリッジです。でも、イギリスには変な入試問題がありますか。受験地獄がありますか。聞いたことがないでしょう。

なぜなら、理由は二つ。一つは中学・高校の成績を重視する。これは、アメリカも同じです。だから、十一歳からよく勉強しないと、もうそこで決まってしまうのです。偏差値ではなくて、中・高等学校の成績で決められてしまうのです。アメリカの場合は、奉仕活動もしないと、ハーバードやエールには入れません。面接ももちろん行いますが。

しかし、日本と一番大きな違いは、オックスフォード、ケンブリッジ、ハーバード、エール

に入っても、よく勉強しないと、よい就職は出来ないことです。社会の中でも評価されないんです。逆に、普通の大学に入っても、よく勉強して、成績が良ければ、よい就職が出来るのです。一流企業や官庁に入れるのです。それだけです。オックスフォードの場合は、厳しい卒業試験があります。それまで三年間はほとんど試験は無く、毎週の論文だけです。しかし、三年が終わったときにバーンとぶつかるので、約二週間、毎日六時間の試験です。三年間の授業が全部試験されるのです。だから、前の晩に一生懸命暗記するのは無理です。

これが、いわゆるセルフコントロール、自己管理です。これが出来ない、よい成績になりません。オックスフォードを卒業しても、A・B・C・Dの評価で、Cくらいだと危ないので、Dでは、絶対に評価されないので。地方の大学でも成績がAだったらオックスフォードのBと同じなのです。オックスフォードのBならば、かなり程度が高いのですから。

それだけで入学試験問題、「学歴」社会問題が、全部きれいに解決するのです。経団連の委員会にこういった説明をしようとしたのですが、全く無理だったのです。頭が固くて、全然解らないのです。それで、彼らはこう言うのです。「我々日本の経営者は、イギリスやアメリカとは違う。勉強虫はいらない。欲しいのは、

たくましい人だ」と。ある人は「若いときは入学試験の勉強して、よい大学に入って、クラブやスポーツをやっていたらいい」と。私はそれを聞いて、本当にびっくりしました。日本はもうダメです。日本人はいつも自分のことばかり考えています。外国ではどうですか、経営者は勉強虫が欲しいと思いますか？ I B MやICIなどの一流企業は、勉強虫やガリ勉は欲しくないのです。もちろん、たくましい人が欲しいのです。ただ、たくましさとはなんでしょう。スポーツやクラブ活動でしょうか。それとも、偏差値でしょうか。これはそれほど重要ではありません。ある程度は関係ありますが。

要は、あなたは勉強が出来るかどうか、なのです。だから、成績も重視するのです。オックスフォードのAは多分、ガリ勉だと思うでしょう。オックスフォードのAは、10%だけです。場合によってはガリ勉ですが、必ずそうとは限りません。またBでも、同時にスポーツやクラブも「両立していれば」それが一番理想的なのです。しかし、スポーツやクラブをいくら頑張っても、成績がCやDならば、評価されないのです。

私がオックスフォードに入った時、若くて、まだ体が小さかった。本当はボートをやりたかったのです。けれども体が小さいから、一年く

らいコックスをやっていたのです。一年生として、コックス、舵取りをやりました。それで前にすすわっていたのです。八人の丈夫なたくましい男がいて、運動は、一日三、四時間やっています。練習が終わって、一緒に食事とコンパをします。日本と同じように、ビールを飲んで。

しかし、日本と違ってするのは、一つだけです。夜の八時、九時になるとコンパを終わりにして、自室に戻って次の日の授業や試験、あるいは、先生との討論のために二時間から三時間くらい準備をします。日本だったらどうですか。正直いって、コンパで一気飲みをして、すぐに眠ってしまうでしょう。あるいは、彼女とデートしたり。勉強する時間が全くないでしょうし、全くしないでしよう。

この、オックスフォードの学生と、日本の学生。どちらがたくましいでしょうか。すぐ眠ってしまう人と、部屋に戻って、二、三時間勉強する人と。明らかでしょう。この場合、オックスフォードの学生は自己管理が出来ているのです。日本の学生は、それが出来ないのです。日本の学生は、周りの人と協調性が高く、魅力的です。しかし自己管理が出来ません。それで最近よく批判されているのです。無気力で弱々しい、と。

財界の方々が、会議を開き、委員会を作って、ようやくこの事実が彼らにも、解ってきました。

これは、日本の将来にとって、とても大変な問題なのです。今までの大学教育にも、欠点が多かった。それでも、学生にはある程度、理念があったのです。特に、六十年代、学生運動など、いろいろとありました。

それと、もう一つ。今までの日本経済のリード産業は鉄、自動車、テレビでした。これには、高いレベルの教育はいらぬのです。そして、特別に創造力とか創造性も必要なかったでしょう。それよりも、まず協調性が必要だったのです。会社に入って、必要な勉強も出来る、知識も技術も与える。それで日本の技術が足りなければ、アメリカやヨーロッパから導入する。それで諸問題が解決したのです。だから、いわゆる「たくましい」イコール協調性のある人間性のある人が求められたのです。

しかし、これからの日本経済をリードするのは、情報通信産業でしょう。それと、ベンチャービジネスです。その場合は、有名大学卒とか協調性よりも、創造力とか創造性のある人が必要なのです。経団連の委員会では、創造性のある人材の育成のため、といった言葉を必ず使っています。彼らの目から見ても、日本の学生や社員には創造性がないのです。例えばコンピューター産業です。日本は、情報通信産業、コンピューター通信の分野で完全に遅れています。いつのまにか、アメリカやヨーロッパと比べ

て、十年から十五年の遅れをとったのです。最近では、台湾にも追い越されました。コンピュータ産業では、その他に香港、シンガポールにもです。日本には優秀なコンピュータプログラマーがいらないのです。ゲームソフトは別ですが。優秀な技術や人材をインドから導入しなくてはならないのです。ある委員会に、三菱系の化学産業の社長がいました。ここでは、生産過程をコンピュータ化しなくてはいけないのですが、なかなか複雑で、難しいコンピュータプログラムが必要なのです。それで、日本人のプログラマーを探したのですが、いないのです。結果は、韓国人とアメリカで教育を受けた日本人を使うことになりました。どうしてこのようなことになったのでしょうか。

たしかに、冒頭で申しあげた文化問題があります。日本人は創造性に欠けるといふことが、日本人のなかでも、日本人には創造性がないことを認めているのです。でもそのことに対して、もちろん反論もあります。もし、創造性とか創造力がないとしたら、なぜそんなにすばらしい自動車やテレビが造れるのか。確かにその通りです。ベンチャービジネスでも、歌舞伎町の方ではすばらしい創造力がある。我々外国人にも考えられない程です。他にも、回転寿司などもそうですね。このような面での創造力はすごいと思います。日本人は非常に現実的な次元で創

造性、創造力があります。非常にユニークな文化なのです。

私は、日本に来る前は日本人と中国人は同じ文化だと思っていたんです。これは、完全な間違いでした。中国人はとても合理主義なんです。理屈主義、議論好きです。その結果は、個人主義。これは統計ではかれるんです。例えば転職率は、シンガポール、香港が世界一なのです。日本人のような情緒的、エモーショナルな、会社に対しての帰属意識がないのです。彼らは自分自身のために働くのです。それで文化は、理屈、議論。日本人はあまり議論をしない民族ですね。お酒を飲まない限りは。

シンガポールの国家の運営は、とてもすごいのです。ほんの少しでも問題があれば、法律、条例で解決するのです。ゴミ問題の解決法も、ゴミを捨てれば、その場で罰金五百ドルですから、すぐに世界一きれいな町になってしまいましたね。日本は、条例を作っても使わないのです。結果は世界一汚い国になってしまいました。この頃、若者は平気でゴミを捨てるのです。人口問題でも何でも、シンガポールでは頭で解決しようとするのです。しかし、日本人は心で解決しようとするのです。現実的な問題であり、目の前の問題であれば、日本人はよくやっているといます。創造力があるのです。我々欧米人よりも、中国人よりも、優れています。

しかし、いわゆる抽象的な創造力、創造性、コンピュータのハードではなく——機械ならばすばらしい物がありますが——ソフトの分野では、誰も考えていない新しい発見や発明は弱いのです。他には、個人で考えて新しいベンチャービジネスを作るのは、誰もまだやっていない産業です。ただし、歌舞伎町以外の産業ならばですが。例えば、レジャー産業などは日本は遅れています。その次元で日本は弱いのです。

そうかといって、私は日本全体に対して批判的ではありません。日本には弱点もあれば、すばらしく強い面もあります。外国人でも、同じように強い面も弱い面もあります。しかしこれからの社会や経済を考えれば、もう少し頭脳的で抽象的な個人主義と自主的な創造力や創造性が必要なのです。その次元で日本はまだ遅れているのではないのでしょうか。

だから、まず学歴社会を攻撃しなくてはなりません。実際には、学歴社会自体は悪くはないのです。「あなたは、どの学校ですか」と聞くのは外国でも同じ学歴社会だからです。でも、外国では、本当の意味での学歴社会なのです。「あなたは、どの大学に入りましたか。その大学でどういう勉強をしてどういう成績をとっているのですか」。つまり「あなたは、オックスフォード大学ですか、成績はDですか」「あ

あなたは、ヨークシャー大学で、成績はAですか」と聞くのです。これは、本当の学歴社会です。日本の場合には大学の名前だけを見て、成績は見ないのです。そこで、この問題を解決しようという進歩的な企業であるソニーやホンダは、入社試験をやるのです。これは、冗談ではない。会社は教育機関ですか。そうではないでしょう。ではなぜ試験を行うのでしょうか。おかしいと思います。学生は、大学でもっとも勉強しなくてははいけません。採用側は大学の成績を見て学生を採用しなくてはなりません。大学は教育機関であり、人の能力などを決めるのは大学の役割なのです。大学でよく勉強したかを決めるのは会社の役割ではないのです。会社は、大学で認められた成績を信じなくてはなりません。だから、大学は責任感を持って、学生の成績を決めなくてはならないのです。ところが、これが問題なのです。日本の大学は、そのことに対して責任がなさ過ぎるのです。甘い先生も厳しい先生もみんな仲良く、適当に成績を決めるのです。これをやめて成績に客観性を与えるためには、相対評価が必要なのです。Aは何%、Bは何%といった具合に。

そして、この成績を基準に、後で企業が試験を行うのも、面接やアメリカで流行っているような心理テストを行うのもよいでしょう。しかし、教育は大学の役割なのです。だから、私は

そのことについていろいろと考えています。これからの日本は、コンピューター産業と情報通信産業だけでなく国際社会の中での役割を担うことが必要なのです。私は、これが心配なのです。日本人には、全く国際感覚がないのです。これは、日本が長い間、孤立社会で鎖国などをしてきたから、外国とつきあつた経験が足りないからで、もう少し外国人とつきあえば国際人になれるという人もいます。

でも、この意見はそれほど関係ないと思いません。肝心なのは、メンタリテイ、文化の問題なのです。日本人は、いわゆる「島国文化」です。外国人は、大陸の文化です。ユーラシア大陸の中国、インド、アラブと、みんなほぼ同じです。文化というのは、価値観や考え方です。だから、いま中国だけでなく、インドやアラブでも、哲学・外交・コンピューター産業の分野ですばらしい業績があります。アメリカのコンピューター産業の三分の一は、韓国人です。韓国という国をご存じですか。中国文化系の国です。アメリカのコンピューター産業は、アメリカ人と韓国人、中国人、インド人が占めています。最近では、これにアラブ人がかなり入ってきています。古い文明は優れています。

北ヨーロッパのイギリスやドイツと同様に、日本は長い間孤立していて、村社会、封建社会でした。だから頭脳や議論よりも、心とか人間

関係と現実を強調したのです。人間にはみんな才能があります。だけど、日本人は、心や人間関係、現実を重視します。これを仮に「右利き」の文化としましょう。我々北ヨーロッパ人にも百年、二百年前にはそういう時代があつたのです。だから産業革命は、フランスやイタリアではなく、イギリスで起こつたのです。かなり日本の面があつたのです。すなわち、人間関係、現実重視型。古い文明は「左利き」すなわち頭脳、議論重視型になつたのです。どちらかというところ「右利き」は正常だと思えます。人間の本質に近いのですから。しかし、我々大陸の民族は戦争が多くて、それですますます理屈やイデオロギーや議論、哲学を強調せざるを得なかつたのです。ますます「左利き」になつたのです。右と左とでは、たぶん右の方が人間の本質に近いのですが、世の中の大多数は「左利き」なのです。だから、もつと上手に議論や理屈の次元で行動できないといけません。そういう社会の中でもつと上手に行動できないと、日本はいつまでも振り回されます。というよりも、危ない状態です。

例えば、尖閣列島問題を考えてください。日本では、みんな当然のこのように日本の領土だと思つていますね。朝日新聞でさえ、日本のクレームに対して少しも疑問を持つていないのです。竹島問題、北方領土問題に関しても同

様です。左派ですら、日本の領土であることに疑問を投げかける人がいないのです。このような民族は、もうダメです。当然、相手国とけんかになってしまいます。「日本だけが正しい」、そんなはずはないでしょう。特に、日本は歴史的に軍国主義という背景があるのです。外国でも領土問題はいろいろあります。しかし、歴史的背景はナショナリストの中でも必ず議論されるのです。

けれど、日本人は議論しないのです。興味もないのです。何か問題が生じれば、誰かを送って日本人の心情について相手の理解を求めようとするのです。領土問題でも、貿易問題でも何でも同じです。「日本の立場は正しい」ということで、相手の理解を求めているのです。これは子供の理論です。

まず、そういった意味で日本は「大人」ではないのです。尖閣列島問題でも、その歴史的背景を考えてください。明らかに問題は多いのです。

北方領土問題もそうです。歯舞、色丹島については、議論の余地がありますが、択捉、国後に関しては、議論の余地がないのです。サンフランシスコ講和条約の内容を「存じでしょうか。日本は、千島列島を放棄する」と書いてあるのです。千島列島には当然択捉、国後が入っているでしょう。あの条約は英語で書かれて

いますが、明らかに「Kuril」と書かれているのです。地図を見てください。これは「千島列島」と同じなのです。しかも、この条約は、国会で認められているのです。議事録によると、一九五〇年十月十九日の午後三時半です。私と石原慎太郎氏で外務省にこの話をしたのですが、何も言わないのです。「当時の発言は国内向けの発言で、間違いです」といった答えなのです。「なぜ、放棄するのか」ということを考えないので。これが日本文化の決定的な欠点です。「なぜ」という言葉を使わないのです。なぜでしょうか。

この件に関していえば「なぜ」という言葉を使えば、かえって日本に有利になるのです。なぜ、優秀な外交官である吉田茂氏が択捉を放棄したか。それは、アメリカから強制されたからです。当時の外交文獻を公表すれば、明らかにになります。これは、アメリカの責任です。アメリカは、第二次世界大戦中、旧ソビエト連邦と約束があつたのです。ソ連が満州方面から日本を攻撃する、といったような。だから、文獻が全部公表されれば、アメリカの責任がはっきりして、日本の立場は俄然、強くなるのです。日本は被害国だったのです。再交渉できるのです。けれども、日本はそうしたくないのです。「アメリカは友達だから」というわけです。でも、ロシアはあまり好きではないから、ロシアの責

任、不法占領だった、と言うのです。これは一つの例ですが、このような事例はたくさんあります。

だから、国際感覚というのは、一生懸命、外国人とつきあうだけではダメなのです。右手（人間関係重視）ではなく、もつと、左手（議論重視）の論理を理解しなくてはなりません。

その鍵は「言葉」です。外国語の教育の重要性に對してかなり反論があるのです。日本人は心でコミュニケーションできる、と思つていますが、外国人が相手だとそうはいかないのです。外国人とのコミュニケーションの手段は、議論です。議論を通じて、言葉を通じて相手の心を理解するのです。

だから、ある程度、相手が日本語をうまく話してくればいいのですが、残念ながら、日本語はまだ国際用語ではありません。そこで、外国語の勉強が必要になるのです。道具としてだけでなく、その心理的な影響も大事です。

私は幸い、オーストラリア外務省に勤務して、仕事上、中国語を覚えなくてはならなかったのです。外務省の命令なので仕方なかったのですが、その後、今度はロシアに行くことになったので、ロシア語を覚えなくてはならなかった。そして、今度は日本に行こう、と思つたのです。その時は、中国語と日本語は同じだと思つていたのですが、大間違いで、日本語も覚

えなくてはならなかったのです。

私の人生は「言葉の勉強」そのものといっても過言ではないでしょう。しかし、一つの言葉を覚える度に、自分の性格が一回り大きくなります。本当にすばらしい経験だったのです。日本人は確かに外国語の重要性を強調しているように見えます。入学試験の中でも大きなウェイトを持っている。しかし、英語を上手にしゃべれる日本人はほとんどいないのではないのでしょうか。長年、外国に住んだり、留学したりしなければ、この頃では、女性で上手にしゃべれる方が多いのですが、男性ではまだ少ないですね。

なぜ、こうなったのでしょうか。中国人が日本人と同じように勉強すると、英語は上手になりますよ。フィリピン人は勉強しなくても英語が上手です。日本人だけが、出来ないのです。角田忠信先生の脳の右半球と、左半球の働きの違いについての説はご存じですか——外国人、あるいは、外国で育てられた日本人は、右と左がはっきり分かれている、でも、日本人は右と左のつながりが強い、だから日本人は理論的に出来ないのです。確かに日本の文化はエモーショナルな面があるでしょう。だからといって外国の言葉も勉強できないというのは少しおかしいのです。エモーションは正しいのです。

アメリカでは、脳に関して別の実験をしています。男女の脳の違いです。男性は左右がはっきりと分かれています。女性には左右のつながりが強いのです。日本的なのです。どこの国でも女性の方が言葉を覚えるのが早いでしょう。本国語だけでなく、外国語も。では、なぜ日本人は英語が出来ないのででしょうか。

明らかに、学校の英語教育が間違っているからなのです。間違っていることは、みんな知っています。例の入学試験問題でも、読み書き英語、教科書英語、文法中心などが問題点としてあげられています。ただ、みんなこう考えているでしょう。まず、試験のために勉強して、頭の中で文法やボキャブラリーなどの基礎を作る。後で会話をしようと思えば、早く出来ます。基礎が出来ているのですから。だから、英語教育は百点ではないけれど、〇点でもない。五十点くらいとっているのではないのでしょうか。ある程度役に立つと。

でも、そうではないのです。百点でも五十点でも〇点でもなく、マイナスなのです。若い頃から、難しいことを間違った方法で真面目に勉強すると、頭の中で致命的な被害を受けます。

まず、なぜ、これほど高いレベルの英語を覚えなくてはいけないのか。日本の入学試験は信じられないくらい難しいのですが、オーストラ

リアでは、中国語、日本語の試験は、六年くらい勉強しても、絵本くらいの簡単なものなのです。日本人はシェークスピアくらいの英語を覚えなくてはいけないのですから、これは不可能なことです。無理だと思えます。もう一つ、英語の先生さえ、解らないような問題をなぜ出題するのか。これについて聞くと、学生を振り落とすためにやっているというのですから、ひどいものです。学生が道具扱いなのです。

語学の問題では、私もこのような経験があります。若い頃、フランス語を勉強した時、教科書中心の勉強をしたのです。フランス語は、英語に近いので、それでも出来たのです。私は教科書が好きなので、今度は同じ方法で、中国語を勉強しようと思ったのですが、途中でその危なさに気がついたのです。それで、教科書をやめて、耳と会話中心の勉強をしました。幸い、その時は香港にいたのです。

なぜ、教科書が危ないのか。人間の脳は、左半球が意識、右半球が潜在意識となつています。物理学や数学ならばもちろん意識である左半球、言葉は人間の本能的な能力ですから右半球です。赤ちゃんが言葉を覚えるときは無意識のうち空っぽのコンピュータにインプットしているのです。ですが、学生の場合はこういうふうには勉強するのは無理です。時間がかかります。だから、意識と無意識を両方使うのです。

文部省は、意識を使つて同じように出来ると思つてはいるのですが、違うのです。意識を使うと左半球に入るのです。一時的ならばそれでもよいのですが。意識で覚えて、すぐに会話の中で使えば、左から右へ移動する、つまり、無意識の領域に入るので。私が典型的な例です。

私は、この事例が好きなのですが、新しい単語を聞くと、すぐにローマ字の綴りで覚えて、口に出すときは、頭の中の字幕を見るのです。五、六回くらい、十回くらい使えば、ある日、字幕を見なくても自然と口から出てくるのです。それでわかるのです。左から右へ動いているのが。いま話している日本語もそうなのです。日本の英語教育はそうではないでしょう。皆さんは、意識で翻訳しているでしょう、文法、動詞はどれを使うかなど、口に出す前に最後のチェックをするでしょう。これでは時間がかかるのです。その間に相手がいなくなるのです。そして、口から出るのは、しゃべりづらい、聞きづらい人工的な英語なのです。もちろん、しゃべるのも嫌なのです。

でも、右半球の無意識のコンピューターで処理すれば、耳から入つてすぐ処理できます。これはすばらしいコンピューターです。IBMより富士通よりすごい。つまり、ボール投げと同じなのです。相手がいて、あなたは無意識のうち角度やスピードを頭の中で計算するでし

よう。数学で計算すれば、三時間かかるのです。けれど、本能に任せれば、全で一瞬に決まるのです。言葉も同じです。すぐに自動的に意味を理解するのです。

けれど、日本人は意識で処理しようとするから、時間がかかる上に、相手が少しでも早く話すともう間に合わなくなり、麻痺状態で頭の中が真っ白になるでしょう。一生懸命勉強して、全く役に立たないコンピューターを作つて、ネットを全部壊しているのが現状です。もう一度この辺でコンピューターを作り直しましょう。そういう意味で日本の英語教育はマイナスなのです。そして、諸悪の根源は入学試験の英語です。

私は、多摩大学で入学試験から英語を外すように提案したのです。みんな英語が出来ないので、喜んでいました。けれど、文部省はぐずぐずしているのです。必修科目から外して、選択にするのです。規制緩和時代でしょう。それで私の将来の願いは、点数が百点ではなくて、五十点。それで、数学百点とか百五十点というふうに調整してほしい。特に活字離れだけではなくて、理工離れもひどいからです。私は、慶応大学の経済学部の入学試験を見ました。日本史と英語でもいいのです。経済学に日本史と英語は関係ないのです。外国では、当然、数学が必要とされるのです。英語教育は、完全に「記

憶テスト」になつていて、しかもひどい被害を与える「記憶テスト」です。

「記憶テスト」が必要であれば、英語ではなくて、J・Rの時刻表ではどうでしょうか。ある程度役に立つでしょう。私は何よりも、例の英語アレルギーが心配なのです。六年の間に無理に難しい言葉を勉強させられて、変な形で変な入学試験の英語では英語が嫌になるでしょう。上智大学にいた頃に分かったのですが、学生の半分は英語アレルギーです。英語を聞きたくない、場合によっては、外国人の顔も見たくないというのですから、完全にマイナスです。国際教育としてマイナスです。

中国人は、なぜ英語がうまいか。国民性にもありますが、一番の理由は十八歳で目的を持つて専門学校で学ぶからです。十八歳が一番よい年齢です。頭はまだ柔軟で、目的意識を持っているから、正しい方法さえ使えばよいのです。私は、中国語は二十二歳で、ロシア語は二十七歳で、日本語は三十三歳で覚えました。三十歳を越えるるとちよつと難しいけれど、正しい方法を使えば三十歳までなら大丈夫です。赤ちゃんは二時間聞いただけで、後でしゃべれるのです。なぜなら、赤ちゃんは聞き流してはなく、深く聞いているのです。自分の生活のために必要なのです。これを「Deep Listening」といいます。相手やお母さんの言葉が解らないと何も

出来ないでしょう。あなたたちも同じ状況を作れば、赤ちゃんよりも早く覚えられるのです。というのは、赤ちゃんは意識を使わないのです。だから意識と無意識の両方を使えば、すごいのです。

今、日本では英会話のテープが出回っていますが、効果はほとんどないでしょう。「Hello, How are you?」「My name is John.」などといった、つまらない英語は聞きたくないでしょう。それでテキストを見ると、みんな左半球の意識の方に入ってしまうのです。まず、面白い話を聞きなさい。テキストなしで、音だけを聞きなさい。赤ちゃんと同じように必死になつてどういう意味かを考えるのです。それで辞書で意味を確認し、会話の中で練習をします。私は、日本に来てNHKの天気予報で勉強しました。言葉は決まっています。その日の夜、赤ちよう懸命聞いて、解読して、その日の夜、赤ちようちんでその話をするのです。「今日は、すばらしい移動性高気圧があつて……」と。その後は、ニュース番組や、主婦向けの番組です。自然に覚えてきました。皆さんも、一日一時間か二時間、そうしてみたらいかがでしょうか。

よく聞かれることなのですが、多摩大学では英語の試験を受けなくても入学できるということ、あなたは国際教育を禁止しているのではないか、と質問されるのです。そうではない

のです。かえって、外国語は四単位から八単位になったのです。しかし、英語がやりたくない、英語アレルギーがあるのならば、中国語をやりなさい。多摩大学は英語と中国語です。中国語は日本人にとっては、とてもやりやすいでしょう。我々イギリス人にとってのフランス語やドイツ語と少し似ているでしょう。日本の文化も中国から入ってきているのですから。また、将来、日本にとって中国はとても大事なのです。アメリカやヨーロッパよりもはるかに大事な国なのです。日本人には、なぜかそういう意識が足りないのです。

日本ではよく危機管理という言葉が使われますが、危機管理以前に、危機意識が必要なのです。前もって、頭を使って考える。将来どうなるか。中国は大事な存在です。中国以外にも考えるべき問題はいろいろあります。経済問題、人口問題、出生率の低下など。あと百年たつたら日本の人口は五千万人になつてしまうと書かれています。いや、一億二千万人は残りますけれど言葉は日本語ではなくて、中国語になつてしまふでしょう、今のペースで行けば。だから、もう少し中国のことを重視して、欧米社会追従だけでなく、アジアの国としてもっと活躍してもらいたいのです。

だから、多摩大学に入つて中国語を勉強してほしいのです。今は経営情報学科なのですが、

これからは、国際経営情報も必要でしょう。アメリカの大学では、経済学とか法律とかの専攻の上に、副専攻として外国語とその国の歴史、文化、政治というふうにやっています。こういう制度は多摩大学にも導入したいと思っています。これが、本当の国際教育ではないかと思つています。

■ 司会

先生、どうもありがとうございました。それでは、休憩の後、第二部の質疑応答に移ります。

第2部・懇談会

■ 司会

それでは、第二部の懇談会に移りたいと思います。先ほどの講演で非常に興味深いお話を聞いて、私も驚きを隠せませんでした。特に、ここが痛いな、というところは、やはり「コンパの後の二次会」というところではなかったでしょうか。その辺のところを踏まえて、先ほど感想カードを書いていただいた中から、時間の都合上、皆さん全ての質問に対して先生にお答えさせていただきまます。

私は、親の仕事の関係で海外に十三年住み、

同じ土地に五年以上住んだことがありません。この春、日本の大学に入学したと同時に、独り暮らしが始まったわけですが、今まで住んでいた所と東京の生活スタイル、考え方、人間性があまりにも違つたために、ときどきカルチャーショックにホームシックが加わつて自分がわからなくなつてしまつ時があります。

日本の学生は受験競争に勝つただけに勉強し、自分で自分を育てる余裕がない。だから、心の弱みに付け入れられると、有名大学の学生がすぐ宗教団体などにはいたりします。今回の講演で、自分の目標とそれに対する勉強、プラス努力、計画はあるもののそれ以外に楽しみたいという自分に対する甘えがあつたことを実感し、ああ、私は怠け者だなあと身にしみました。自分の道は自分で切り開かなければならないわけだから、これからは、気合いを入れて毎日毎日を大切に生きよう、と自分に誓いました。

勉強法イコール自分を抑制することだという意見があつたのですけど、

日本人はまだまだセルフコントロールといった考え、概念の使い方が下手ですね。今年の夏、たまたま、イギリスの方とお酒を飲む機会がありました。とても楽しそうに議論するなあ、と思つた覚えがあります。議論もゲームな

のですね。とても洗練されているという印象でした。また、これがいろんなスポーツを生んだイギリスの土壤なのかもしれないですね。頭の使い方がうまい。

しかし、日本の英語教育に汚染された私は、議論どころか全然会話も難しかったです。ただ、ジャパニーズスマイルを浮かべるのみでした。

と、いうことです。

ここで皆さんの意見の中から多いものを議題として提案しますので、ぜひ皆さん、手を挙げてください。先生と会話するすぐ良いチャンスだと思えますのでよろしくお願いします。

ここですね、頭の使い方がうまいということなんですけど、先生は日本の学生を見られて、海外の例えばイギリスの学生と日本の学生とで頭の使い方が悪いな、良いなというふうなところ、具体的な例がありましたら何点かあげていただきたいのですが。

■先生

ちよつと繰り返しなんですけど、強調したいので。人間はどここの国、どこの場所でも才能を持つている。アフリカの部族社会でもすばらしい才能の持ち主はいます。ただ、才能の使い方とを使う方法が違うのです。さっきの話のように「右利き」と「左利き」とは、大きく違う。結

果は、場合によつて日本人はちよつと足りない面がありますけど、場合によつてはすばらしい精神力、実績があるんですよ。

私の具体的な経験について話をさせてください。私は、上智大学でゼミをやっていたんです。市谷の国際部ではなくて、四谷の方で。本場にカルチャーショックを受けるんです。

まず、外国のゼミは大体、半年くらいですが、上智は二年です。二年間、同じ学生に教えるのは無理だと思つていたんです。なぜ二年か、という疑問はありますが、まあ、それだったら二年で結構ですが、学生を選別しなければならぬと言われて、それはおかしいと思つたんです。普通は、学生が先生を選別するのです。私の専門は経済発展です、学生が、私の経済発展の授業に興味があればどうぞ、という態度を取ろうとしたんですけれども、何回も警告されたんですよ、それは危ない、危ない、と。私のゼミに入る学生は、他のゼミに入れない頭の悪い学生ばかりになりますよと、そういう意味だと後でわかつたので、私は学生を選別しました。そうすると、弟子になりたいからと言うのです。それでも私はいんですけど、経済発展の勉強をするなら、実際の話はいいとして、まず理論を覚えなければならぬ。それが外国人のやり方で、初めは理論、それから実践ということになります。毎週、本、記事、論文など、いろいろ

と経済発展に関する説を読みなさい。それで討論しましょう、と言ったのです。でも学生は、全然それを読まないし、討論もしない、質問も出せない。完全な失敗でした。

そこで、学生の中からリーダーを出しました。なかなか優秀な人だったんですね。良いリーダーを選ぶのが日本人はうまいんです。リーダーにふさわしい人物だった。彼は、私に、こう言ったんです。「クラーク先生、こういうドライな欧米方式はやめてウェットにしなくちゃいけない。まず月に一回のコンパをやらなければいけない。年に二回は合宿もやらなければならぬ。OB会も作らなければならぬ。結婚式に仲人もやらなければならぬ。授業のやり方は、学生一人一人のゼミではなくて、サブゼミを作らなければいけない、A班、B班、C班と。それで、その中で三年生と四年生のバランスもとらなくちゃいけない」と。

そして、そういう抽象的、理論的な話はやめて実際の勉強をしようと言う。初めは、この学生はインチキだと思っていたんです。サボるためだと思ったので。ところが、そういうことじゃなかったんですよ。初めはびっくりしたんですよ。例えば、経済発展と農業のことをテーマにしたのですが、A班はタイのこと、B班はインドネシアのこと、C班はフィリピンのことをそれぞれ調べたのです。さらに、グループ

の中で、役割分担をして誰かがどこかの図書館に行つて資料を集めて、他の人は別の図書館へ行くというふうですね。そうしたら、すばらしい報告書が出来たんですよ。欧米の学生はああいう詳しい内容たつぷりの報告書を書くことは無理なんです。欧米の学生は、自分の意見ばかり書くんですよ。ああいうサブゼミの雰囲気にならないとよく勉強しないんですよ、日本の学生は。私にとっては大きな勉強になりました。

それと日本人は、会社に入ってからよく勉強します。私が日本で一番ショックを受けたのは、小さな自動車部品会社のQCサークルで、十人くらいの若い人——大学卒じゃないですよ——が、残業時間ということではなく、自分の仕事を終えてから、品質管理の討論をするために、二時間、三時間と熱心にお互いに話し合っている。それで、チャートも用意している。こういうふうになればどうですかとか。そこには、お手伝いする女子社員も残っていないんですよ。そこで働いている若者ばかりなんです。これは外国では考えられないことです。

だから、日本の文化には、日本の天才がいまですよ。ただね、とても堅物なんです。そこが違ふのかな。日本の文化の中で、まず本当に洗練された感受性、お茶とかお花等いろいろとありますね。例えばホームドラマです。映画では女優が、本当に最高ですよ。例えば中国と比べ

てみると、クールで、ソフィステイケイテッドですね。色の選択とか、広告などでも日本の感性は光ってます。

また技術も進んでいる。いろいろを面で日本人は才能があるけど、しかし欠点もあります。まず外交ですね。無茶苦茶子供っぽい外交ですね。そうなると日本のことを尊敬できない。あとはエリート官僚の態度、いばった態度ですね。下の官僚の人はすごく良い人なんです。私のゼミみたいな人が多いですよ。真面目に働いてすばらしい報告書を作っています。ところが、偉くなればなるほど、何かがおかしくなるんですね。

腐敗している政治もそうです。外国も腐敗していますけど日本ほどじゃないですね。そういう意味で日本の文化とは、封建的な村社会ですよ。その中に良い面が多いんですが。後はさつきの話で、日本の学生は甘え。

それと、暴力団の存在。どうして許されているのか。これは、社会の中のひとつの癌です。例えば尖閣列島の事件は、五十年、六十年の前の日本と同じ、ずるいやり方なんです。あの頃中国に進出して、麻薬とかひどいことやったでしょう。ところが、もちろん、これは政府じゃないと言います。尖閣問題でも、これは我々日本人じゃないよ、という。右翼団体や暴力団のしたこと、別に民間人じゃないし、政府は

やっつけてないよと言っている。しかし、そういうふうにはやっつけていけば、仕方がなくて禁止できないのだという。そういう規制がある。規制事実主義。こういうやり方は、あまり尊敬できないですね。

後は、戦争責任。これは何よりも日本の許し難いところです。全く責任感がない。あなたたちの祖先は中国で何をやったか。表現も出来ないほどひどかったんです。しかし、自分がちよつと被害を受ければ、広島爆撃のように、わあわあとして泣き騒ぐばかり。こういうところは、尊敬できないですね。

まず、東京の空襲です。あの犠牲者は、広島の数倍でした。ひどいかたちで死んでいます。そして、それは全く意味の無い空襲だったんです。しかし、広島空襲は、日本にとつて戦争を終えるために必要だったのではないのでしょうか。あのショックがね。日本はその時、全くマイノリティでコントロールされてしまって、国全体が拡大「オウム真理教」状態になってしまったんですよ。他のことを考えられないのです。にもかかわらず、軍部は天皇陛下が降伏する決断には反対だったでしょう。原爆はショックは強かったけど、犠牲者は東京空襲の半分。あの攻撃、爆弾がなかったら東京空襲みたいなのもっと続きましたよ。その後、本土決戦になれば、犠牲者が四百万人は出ますよ。アメリカも犠牲者

はかなり出たでしょう。だって沖縄の繰り返しになってしまふんですから。

今の日本の世論のほとんど八割、九割ぐらいはあの爆撃がひどかったという。日本人はギブアップしたかったんです、もうまもなくギブアップしたかった。でも政府の発表はギブアップしないというんですよ。ポツダム宣言を黙殺。明らかに軍隊は狂ってしまったんです。軍隊が完全に日本を支配した。広島爆撃は必要だったんです。日本人のために必要だったんです。そういうふうには割り切つて論理的に考える日本人は、本当にいないんです。みんなの気持ち、被害者意識を重んじて、核兵器は悪い、兵器として非人道的というだけ。

あとは毒ガスや細菌は非人道的でしょう。日本は中国でガスと細菌を両方使つたでしょう。核兵器の開発もやつたでしょう。アメリカは、日本に対してガスと細菌を使つていた？ 使わないでしょう、核兵器だけでしょう。バツ一です。日本はバツ二です。どうですか？

■質問

例えば戦争のことについてなんですけど、僕はメキシコで生まれてずっとメキシコにいたんですが、その時に、教科書自体に日本がどういうことをしたか、日本人は自分たちがやったことに対してこういう責任を持つべきだとか

そういうことは載っていないわけですよ。

■先生

でも、今後の教科書は良くなるでしょう。情報はいろいろあるんだけど、真剣に伝えよう、知ろうと考えていないんですよ。これが日本語で「水に流す」ということだろうけど、そういう意識が非常に強いんですよ。こういう問題は、ある程度理論的な中国人と非常に正対なんです。中国人は千年前、二千年前のこともちゃんと覚えています。韓国も覚えてますよ。カンボジアも中国や日本のしたことを覚えています。東南アジアも覚えてる。シンガポールで何があつたか、ご存じでしょう。シンガポールの事件は計画的です。大学卒の、つまり頭がいい、大学教育を受ければ必ず進歩的で、必ず左寄り、必ず反日感情を持つから、そういう人たちが全部で四万人が犠牲になったといわれる。過去の世代だけの問題ではないんです。

最近ですが、外務省の人とシンガポールに行くけど反応がわかるんですね。例の虐殺とか戦争責任問題を取り上げられるので、日本側は出来るだけ議論しないで黙っている。相手は中国人ですよ。我々欧米人より理屈っぽい民族です。議論をすると、それはひどいものです。

しかし、戦争責任問題、日本の将来はこれにかかっていますよ。ますます中国は反日感情を

強く持っている。ナショナリズムなんです。私は上海から戻ったばかりなんですけど、中国人は、まだアメリカのことは尊敬しているんです。本屋さんに入ってみるとほとんどアメリカ関係のものばかりで、日本関係の本を置くとすれば戦争責任のことについて、虐殺の写真もあります。だからナショナリズムが高まれば、反米ではなくて反日。それで中国が韓国とアジアと連盟を作って反日連盟を作れば、将来の日本にとってどうなるでしょうか。それと、私は以前外務省にいたから知っているのですが、我々欧米人がベトナムで何をやったかを。ほとんど日本の軍隊と同じですよ。虐殺、強姦、拷問、薬物使用……。

日本人は、ドイツのように少し理屈っぽくなって、良い日本人と悪い日本人の区別をつけられようかな。だって、戦争の間でも良い日本人はいましたよ。ニューギニアは、以前、オーストラリアの植民地だったけど、パプアニューギニアは、完全に二つに分かれています。東の方はひどい反日感情があって、逆に西の方には、すごい親日感情があります。あれは日本の海軍のおかげなのです。そこ出身の、後で総理大臣になったソナレさんは、完全に親日派で息子は日本人の名前も持っています。ニューギニア人なのに「リュウイチ」という名前を持っている。海軍はそこで、三年間かけて、学校を作りまし

た。オーストラリアの植民地だった時には、オーストラリアは全然学校を作らなかった。日本は学校を作って、彼はその学校へ通って、教育を受けて、その結果、総理大臣になったんです。GRAM、サイパンも経済はちゃんと農業基盤があつて今でも活きている。アメリカの占領になつて、売春と観光が盛んになったが、植民地下の時代はいわゆるサトウキビなどの第一次産業でしょう。

しかし、悪いこともあつたのです。ドイツのように裁判をしなくてもいいですけど、名前を出して責任をはっきりさせないと。こういうマレーシアの村落で中国人の住民が三百人は殺された。責任は広島の何々師団だというふうに。そういうふうに表示すれば、問題解決のためにもなる。でもそれをしない。絶対しない。

■質問

それというのは、日本で最近ニュース等でも、日本ではデイスカッションのノウハウとか、デイスカッションテクニクがないとか、デイスカッションが出来ない国だとよく言われますよね。

■先生

まあ、それはある程度仕方ないんです。「右利き」の人が左手を使いなさいといわれると、

大変でしょう。だから100%上手になるはずはないんです。しかし、ある程度は、練習は必要なのです。もうちょっと上手にね。それと同時に相手の理解を求めて「我々日本人は、議論しないですが右手を使います。だから、勘弁してください」そういう態度をとつてもおかしくありません。我々「左利き」の連中は、本当にそういう意味では一方通行なんです。こちらは正常であり、あちらは異常とかね。あなたはこれが出来ない、けしからんというふうに。そういう態度をとるのもあまり良くないです。

■質問

ただ、例えば今先生がおっしゃったように、少しはこっちの左側の *Practice* をしなさいといった時に、具体的にはどうすればよいでしょう。例えば、これから日本の教育とかはどういうふうに？

■先生

よく言われるんですけど、学校で議論を教えるんですけど、うまく行けばいいんですけど。ゼミなどである程度は訓練になります。要は国際関係を担当している連中、外交官、外務省、あるいは、通産省、大蔵省はもつと左手が上手にならないといつまでも問題は起こります。

■質問

今、先生の話聞いて、そのリサーチがすごくまいとか、イントネーションをゲットするのがすごいというのを聞いて、そういうことを知らなかったんですけど、僕がアメリカンスクールに行った時にワールドヒストリーのクラスとか国連とかとりあげた時に、やっぱりみんなすぐリサーチしてそこからディスカッションに入ったりするわけじゃないですか。そういう時にディスカッションするのは、武器になるわけですよ。そこら辺との共通点はどうか。

■先生

そうですね。それは議論のために勉強するということですね。日本人の勉強は議論のためではないんです。日本の小学校、中学校の教育は優れているんですね、外国よりも。現実的、実際の勉強なんです。高いレベルになると確かに外国の方が優れていますよ。もうちょっと抽象的な授業になるでしょう。国連のこれからの役割とか、そういう議論は外国人は好きなんですよ。日本人にとって抽象的でしょう。日本人はもう少し現実的で「タイの農業問題」とか、その次元で勉強したりする。アメリカ人だったら、「タイの農業の勉強は絶対にしなよね。こういうテーマは外国人の目から見て低い理

論の勉強なんです。工場でよく言われています。

日本の技師で大学卒が、機械の働きをもっと良くするために工場内で労働者と一緒に働いています。アメリカだったらそういう勉強は研究室でやる。だからアメリカの技術は、長い間、日本と比べれば遅れていました。しかしアメリカは、研究室で一生懸命にやっているからノーベル賞を授与されるし、すばらしい理論も出さるでしょう。日本はその次元では弱いでしょう。だから非常に難しい。どちらの方が良いか、悪いかと決められない。決めるのはほとんど不可能なんです。今までの経済では、日本人のやり方の方がベターだったんですが、これからはベターじゃないのです。それしか言えないです。外交だったら日本のやり方じゃ絶対だめなんでしょう。もちろんイデオロギー的ではない日本ではね。だからイデオロギー的な中国人やアメリカ人と比べれば、はるかに合理的ですよ。イデオロギー戦争を起こさない。しかし、軍国主義はエモーションでしょう、イデオロギーではなく。エモーションになると外国人は日本人と比べれば下手なんです。そういうプラスとマイナスの二つの考え方があり、どちらが絶対ベターとは言えないんです。何でも二つの次元がありますからね。

例えば、日本は閉鎖的といわれます。場合によつては非常に閉鎖的ですが、場合によつては

世界一オープンな社会です。だって文化だったから何でも取り入れる。食べ物、建築、洋服でしょう。自分の家に和服もあるでしょう。外来語はうまく使っています。料亭に行くとご飯、レストランに行くといつた具合に、ムードと雰囲気を使い分けている。時にそういう次元で繊細なんです。場合によつて非常に優しい、親切です。でも、戦争になると欧米人よりもひどいですね。

■質問

外交と僕自身が考えることについてというのは、アイデンティティのことですが。実は僕は父の仕事があつて海外に住んでいてメキシコ生まれだから、メキシコ人って言っているんですけど、やはり心の底では、日本人としての意識があるんですね。住めば住むほど自分が日本人であるのかどうなのか疑問が出てくるんですよ。その時にやはり自分は日本人なのかどうかという疑問が出てきたわけです。

■先生

それは当然、日本人のアイデンティティというのは人間関係とか雰囲気とか、エモーションなものです。我々外国人のアイデンティティは、はつきりとしたイデオロギーとか文化なものです。言葉とかいろいろ。だから、我々外国人

が外国に行つてアイデンティティを守るのは簡単なんです。私は日本に二十年いるけど全然日本人とは感じていません。オーストラリア人です。日本人はそういうことは出来ないのです。でも、かえつてこれは非常に国際的なんです。あなたの例なんですけど、南米に住んでいる日本人は、誰よりも早く現地の社会に同化できるようです。それも一つの世代だけでですよ。ペルーの大統領のフジモリさんは、四歳の時、日本から南米に行つた。日本人なのに完全にペルー人になつて大統領になつている。すごい国際性と言つていいでしょう。しかし、日本人のアイデンティティは、文化ではなくて人間関係なんです。早くに日本のアイデンティティをやめてペルー人になつたということです。アメリカに住んでいる日系人も同じでしょう。今、O・J・シンプソン裁判で、裁判官二人に選ばれたのは日本人なんです。日本人の名前と顔。でも態度は全くアメリカ人と同じなんです。日本人は周りの環境に非常に影響されやすいんです。だから悪い面もあれば、良い面もある。東南アジアに住んでいる中国人・華僑は、百年、二百年ぐらい、へんぴな所に住んでいても自分は中国人と感じ、文化を守っている。日本人と大きな違いですね。

■質問

先生は、例えば日本で生まれて育つた人が、海外に出る時に、自分が日本人であるというこのプライドとかアイデンティティというのは必要だと思いますか？

■先生

どちらでもいいんです。現地の社会に溶け込めば。しかし、一番いいのは現地と日本のバイカルチャー。ただね、そのために自分の国のアイデンティティと同時に相手の文化を理解しないといけない。日本人は「右利き」でこういうふうにやっている。でも、ここは「左利き」だから、それで結果として私はこの社会にかみ合わない面がある。それは別に悪いことじゃなくて、日本人はこうだと。そういうことを言うのでしよう。

ただ大体の場合ね、ああいう漠然としたアイデンティティを守るために、日本人はひどいナシヨナリズムになつてしまう。心的な日本人は、ただ違つていただけじゃなくて、優れていると思つてしまう。現地の人たちは、より低い存在になつてしまう。これではちよつとね。

■質問

先生のおっしゃるアイデンティティを持つというの、どういうことでアイデンティティを持つということなんですか？

■先生

なぜ、自分は何で日本人かということですか。我々、外国人にとつては、簡単です。こういう宗教、イデオロギー、文化、言葉などがそれです。日本人はそういうものにあまりこだわらないんです。だから外来語が簡単に日本語に入ります。中国語には入らないんです。韓国語でも除外しようとしている。日本では結構そういう文化的なアイデンティティは弱いんです。日本人のアイデンティティは人間関係だし、そういう人に囲まれているという精神的なよりどころなのです。

だから、日本人の場合は定義しにくいんです。日本の社会を離れば、アイデンティティはある程度なくなつてしまふんです。日本人は、そういう意味では可哀想ですね。

■質問

それは先生がおっしゃつたような、勉強を質的にやらないということとつながるんですか。

■先生

ある程度、実質的に私のクラーク方式で勉強させられれば、右手よりも、もうちよつと左手が上手になるかもしれませんね。

■質問

あの、先生の話を聞いてみるとポイントはおそらく、もちろん自分の中に自分の価値観とか一つの自己を持っているということとは大切だけれども、自分の外にあるという考え方、觀念というものの存在を認めないかどうかという点と右手が善がりの考え方に陥る。特に日本はその左手と右手があつて、左手の存在、左手で考えるという人たちの存在を認めないと、すごく誤った外交になったりするということだと僕は感じたんですが、その背景にあるのは非常に文化的な背景が大きいと。地理的に、農耕民族、狩猟民族のような文化。

■先生

狩猟民族は大陸の。

■質問

はい。その文化的な影響力が高いと考えるならば、例えば、日本としては今まであつた文化を乗り越えて、新しい自分たちのアイデンティティというか存在を高めていかなければいけないと思うんですけど。先生自体はオーストラリアを出てイギリスの大学に行かれて、いろんな国を渡っているんですけど、自分の自己を守ろうという場合というか、自分の考え方を

守ろうとする場合と、それ以上に自分の軸を展させていけないといけないという、そういうジレンマにいつもあつているんじゃないかなと考えるんですけど、先生自体は、経験的にそういう時はどうお考えなのかなと。

■先生

私は二十代で香港やソ連に住みました。私も彼たちも左手なんですけど、左手圏の中でもさまざまな違いがありますからね。それで異文化に慣れてきた。その後日本に来てまた異文化だつた。それでだんだんわかつてきたのですが、思っていたよりも違つてるし、わかりにくい。しかしその文化を勉強するのが面白かつた。そういう機会があつたんです。幸い日本人の特異性に興味を持つグループがいたので。それは私にとつて、すごくアイデンティティの研究でプラスになつてよかつたですね。

また、このアイデンティティも、男性と女性タイプの違いもあります。特に日本の文化は、女性的である。だつて女性は直感力が強いでしょう。女性は実際のでしょう。女性は言語能力も強いでしょう。日本の文化はこのタイプです。男は、どこの社会でも設計とか、数学とか理論科学とか作るでしょう、女性よりも。チェスなどもうまい。

けれど、ジャーナリズムなんかアメリカでは

すごいですよ。ほとんど女性なんです。最近の『Time』とか『Newsweek』とかの表紙の裏を見てみると、トップは男なんですけど、後は全部女性ですよ。今、イギリスでは証券会社のアナリストも女性の方が多いですね。女性は細かい仕事がうまいんです。だから、一つの才能なんです。だからといって男性である人が無理に女性にしようとする、あるいは「コンバイン」しようとするかどうかでしょう。「コンバインする」というのは、一番危ないでしょう。日本語では「オカマ」でしたっけ。

それと同じです。無理に日本人をやめて外国人の真似をしようとするとか、議論を上手にしようとか、理屈っぽくなつたりする必要はない。そういう日本人は魅力的ではないです。かなり中途半端で、オカマ的になつちやうんです。だから私は、できるだけ日本人は自分の良さを守りながら、相手のやり方もちよつと理解して、それが合えばつき合つて、合わない場合は、こっちの方の極端な面を調整して。我々お互いに極端な面があるでしょう。男の社会の中でも、そういう過度に男性的なものは尊敬されないでしょう。だから合うように調整するというように。それが結論です。

外務省の中では問題になつてはいるんです。中途半端な日本人がね。極端に外国の影響を受けていて、日本人ではない、外国人でもない。

どこの国の人であるかわからないという。そういうのは国際化とはいえませんが。

■質問

日本の大学はさまざまな問題があると思うんですけど、逆に学生の側に目的意識の問題で、問題点があると思うんです。例えば、多くの日本の学生は四年生になると就職しなければいけないということになって、三年生の終わり頃になってから、自分の進路について考え出すという人が多いと思うんですけど、例えば、アメリカ人の学生なんかは、大学を選ぶ時点で将来何をやるかと決めた上で、大学あるいは学部を選んだりしている。だから大学に入った時点で将来の目的意識が違ってきていると思うんですけど、その点についてはどう思われますか。

■先生

そういう面がありますけど、日本のやり方は、そんなに悪くないと思いますよ。真面目に三年間ぐらい勉強すれば、最後の一年はゆっくりして、自分の進路を考える、会社を選ぶというやり方自体は悪くない。ただ、確かに、外国だったら大学に入って、ちゃんと学部を選んで、私は医師になりたいとか、法学部に行きたい、学校の先生になりたいとか目的を定めている人は多い。しかし、曖昧にやっているとどうかま

だ学部を選択できないという学生も、外国でも半分くらいはいますよ。ただ比べてみて違いがあるとすれば、アメリカの場合、優秀な学生は、ほとんど大学院に入るので、日本と違ってね。良いか悪いか別として。学部を選ぶ時は、頭の中がまだ漠然としていて、大学院になると私は弁護士になるというふうを選ぶんです。だから会社に入って仕事をするのは二十五歳、二十六歳ぐらいです。

■質問

日本の大学生というのは、確かに進路を決めないっていうこと、しかも日本の学生は、事実理工離れだとも思うのです。そのことを、経団連がかなり心配してるって言ってますよね。それで感想カードの方にも書いたのですが、果たして、そういうふうには押しつけていいものだろうか。勝手に数学が無くなってしまったとおっしゃっていましたが、数学が嫌な人はやりたくないわけで、例えば文学をやりたい人に数学を勝手に押しつけて教えちゃうってというのは、大それたことじゃないと思うんですよ。大学は、できれば、純粋にやりたい学問をやるって感じのところにしてほしいと思うんです。できれば、そういうことを言ってほしいと。

■先生

私は、全く反対意見です。無理にやることも必要です。文科系の人は無理に数学の勉強をやりなさい。物理学や化学を、かえって勉強しなさい。この頃の物理学とか化学はすごく面白いですよ。一つの芸術ですよ。粒子の理論とか、すごいですから。私は、どちらかというと文化系なんですけど、オーストラリアの学校は必修で七科目やらなければいけないんです。考古学、物理、理科、数学は二つというふうには。若い時にはいろいろ経験しておいて後で専門をしていけばいいじゃない。どうかな。

■質問

でも、ある程度高校で習っているじゃないですか。

■先生

日本の場合は、若い時に選ばなくちゃということでしょう。でも、入学試験で例えば慶応大学でも科目は二つか三つでしょう。外国だったら、イギリスは今でも五つ、六つぐらいですよ。だから、文化系であっても必ず理科一つと数学。数学は必修ですよ、イギリスの場合は。

■質問

今までのテーマとは少し違うんですけど、僕は、すごくベンチャーというか、将来企業家に

なりたいたいと思ってるんですけど、今までの話の絡みでいうと、右手と左手の考え方の違いで日本は企業家が育ちにくい土壌だというふうに言われますけど、クラーク先生はそれをどのように思われますか？ 日本人の考え方とか社会の体質で、どのような体系から育ちにくいと分析されているのかお聞きしたいのと、それから私のように、将来企業家になりたいと思ってる人間は、社会のシステムとか、社会に対してどのような視点でものを見ていった方がいいのか、どのような考え方で日々生活していったら良いかということをおアドバイスしていただきたいと思えます。

■先生

日本の場合、問題は「横並び感覚」なのです。他の人と同じことをやれば、自分も安心して、自分もやる事が出来る。けれど、ベンチャービジネスで成功したければ、他の人がやっていないことをやるんですよ。でも、日本人はなかなか出来ないんですよ。まあ、あんまり出来ないうことです。外国人の中から見ると、日本はそう見える。私が企業を興したければ、新しいレジャーを開発して成功すると思う。別にいい考えがなくても、外国へ行って外国のやり方を見てればわかるんですよ。例えば、変な古くさい洋館のラブホテルじゃなくて、家族向き

のモーターだと、誰がやっても必ず成功しますなぜか、他にそういうものがない。だから、そういう横並びの価値観を取り去れば必ず成功します。そういうふうには、とにかく流通制度等でも、例えばディスカウントストアなんか、かなり伸びてるといっていいでしょう。新しい方式を導入しているからでしょう。

■質問

ちよつとお聞きしたいんですが、日本でよくいわれている西洋主義。アメリカやヨーロッパの物を単純に良いと思つてしまつてしまつてところがあると思つてますよ。そういつた中で、今日のお話にもありましたけど、日本の物をどう守るか、日本のものの文化をどう守るかということと、ある意味で日本は、非常に狭間にあると思つてますよ。先生がおっしゃられるように、左手と右手の思考法というのも、日本文化、あるいは、日本のそういう、伝統的な考え方に結びついていると思つてますが、そういう中で、例えば戦後補償の問題も、さっきの話の延長で絡まってくると思つてますけど。単純に、日本がディスカッションが出来ないのも、そういう非常に秘められた部分で、語られざる領域みたいなものが非常に影響してくると思つてますよ。ある意味でこれを解決することが、確かに日本の前進につながるというご意見は

わかるんですけど、その欧米の方から見られた日本の立場、アジアにおける日本の立場というものをどう回避するかということについてお聞きしたいのですが。

■先生

あの、欧米の崇拜、そういう話ですよ。欧米のものだったらいという考え、これは実際日本的ですよ。さっきの話ですね。日本は文化的なアイデンティティが弱いから、だから外の文化が入りやすい。だがこれ必ず悪いということとは言えないでしょう。すごく良いことなんです。ただその中でやり過ぎがあるんです。外来語が入って、日本の言葉が豊かになつたけど、やり過ぎもあるんです。不動産広告を読んでこの文章を作りました。「ハイウェイリゾートエリアのアットホームなエコノミータイプマンションのモデルルームオープン」これはちよつとやり過ぎね。この前、ゴルフ場に行きまして、キャディがおばあさんなんですけど、「このグリーンは、アンジュレーション (undulation) 起伏が多い、アンジュレーションが多い」って。いま、問題になつていまして。びっくりしました。英語の中でも難しい言葉なんです。あんまり教養のないイギリス人は使わない。けれどもそのおばあさんは平気で使っている。今、彼女たちはキャディでなくて、名前を変えて

「コース・アドバイザー」。

しかし、これは実に日本的ですよ。もともと中国の言葉が多く入っている。日本人はまだ漢字を使っているでしょう。韓国人は絶対に漢字を使いたくないんですよ。しかし、どちらからかといえば日本は漢字を使っているで良かったですよ。問題はね、自分のアイデンティティや文化が、イデオロギーとかはつきりしたものじゃないという点です、非常に曖昧。曖昧というよりも、雰囲気なんですね。雰囲気で覚えちゃう。雰囲気ですとまっている。

外国の物が入りやすいということよりも、私が心配しているのは、これまで雰囲気ですとまっていたが、逆に「真空地帯」になりやすいことです。今の若者は欧米的ではない。問題は、真空地帯なんです。はつきりした道徳がない。前は、雰囲気、空気で決まっていた。そして、その中で欠点もあれば、すばらしい面もあった。国内の礼儀正しさとか正直さとか。これは、私にとつて、日本人の魅力の中の一番目のものだったんです。言い忘れちゃったけど、日本に来ている外国人も、みんな同じ意見ですよ。こんな正直さはどこからくるのか。釣り銭のごまかしはほとんどないでしょう。外国ではみんなやっていますよ。彼らは「Why」という言葉を使っていますよ。なぜ利益を追求しちやいけないのか？

正直にすれば利益は十分。釣り銭のごまかしをすれば百十分。それをやらないと馬鹿正直なんです。みんなやっているんです。誰でもサイフを見つければ、当然自分のものですよ。日本人はちゃんと交番に届けてくる。これは伝統、雰囲気だと思っんです。恥と考えて、つい道徳的になる。しかし、日本は聖書はない、イデオロギーもない。

日本人をまとめていたこの雰囲気が無くなると、結果的には若者は万引き。もともと日本人は、万引きが少ない民族でしょう。でも、万引きは、簡単に出来るでしょう、今の日本の店では。これは、欧米の文化の入り過ぎでなくて、自分の文化の崩れなんです。これをもうちょっと意識して、自分たちの文化を守るためにどうすべきか、今までは閉鎖的な社会の空気によって守られていたんですけど、これからはますます守りにくくなる。やっぱり若い時から、学校で道徳教育がますます大事になるんじゃないか。その時は「なぜ」を場合によっては使わなければならぬ。なぜ正直にするのか。地獄に入るわけではなくて、刑務所に入るからというのではなくて、我々日本人には、こういう伝統があるから。そして「なぜ、こういう伝統があるのか」ということでますます自分の文化の内容を意識してほしい。単なる感じじゃなくて「何となく」の気持ちではなくて。この「何と

なく」という気持ちが一番危ないんですよ。そのムードが、ナシヨナリズムになる。

しかし、道徳教育はね、まず奉仕活動をやらせることです。やっていないんですよ、日本の教育は。これは自然に道徳を考えさせる。問題はね、あなたたちも昔は国家主義で、そして国家の道徳があった。そして今は学校主義。学校の中で育つから、学校の中ではちゃんとやっているけど、学校の外の社会に関してはほとんど意識がないんですよ。

私は、よく房総半島に行くんですけど、若者がみんな海で海岸で、パーティをやっているでしょう。ひどいんですよ、ゴミを残していつて。鎌倉、湘南ビーチで、外人部隊が出来た。朝早く、外国人が五、六人ばかり、一晩のゴミを集めるんですよ。すると、まだビーチに残っている日本の若者に笑われちゃうんですよ。彼らには、もう全然道徳意識がないんです。

これはね、箱の中で育てられていて、社会の一員という意識がないためですよ。私は若い頃はボーイスカウトをやりましたが、奉仕活動をするとするのは、本当にすばらしかった。それで自分は社会と関わりを持つ。後は新聞を読むんです。アメリカだったら、十二歳からちゃんと、みんな新聞を読んでいられるでしょう。切り抜きをして、それで切り抜きを持って先生と討論をする。ベトナム問題とか、経済問題とか。

あなたたちは新聞を読んでいたか？ 学校の時に。大学に入っても新聞を読まないでしょう。漫画ばかりでしょう、正直に言つて。会社に入って初めて新聞を読むでしょう。会社に入つてやつと社会人、これみんなの中の意識でしょう。つまりそれまでは自分はまだ子供なんです。それが、いわゆる真空地帯なんです。実際、子供じゃないんです。もう既に社会のメンバーなんです。その意識がないんです。昔は、意識を作るために変な国家主義があつた。

本当に、奉仕活動はこの社会でも必要なんです。特に日本の場合、イデオロギーもないし、宗教も弱い。奉仕活動という意識もないです。愛しかりです。それと道徳教育。道徳教育は微妙な問題なんです。余計に押しつけようとすれば反発が出てくる。自然に社会のメンバーとして、こういうふうにやらなければいけないという要請。これが出来れば一番いいでしょう。今の日本の社会ではほとんど不可能でしょう。今日は息子が来ています。典型的な真空地帯の息子です。けれど、神戸地震の時、ボランティアとして二、三週間自分の意志で行つて、別人みたいになつて戻つてきた。本当に素晴らしい。もっとああいうボランティア活動をするとうと良い。外国だったら、特にアメリカだったら、一流大学に入ろうと思えば、ずつと五、六年ぐらゐ奉仕活動をやらなければならぬ。ハーバ

ードとかエールとか、そうしないと、入れないですよ。これは何よりも日本には大事なことです。

私は、多摩大学にこのボランティア活動を導入しようとしたんです。夏休み、一学期だけ一回だけでもいいから三週間ぐらゐ。過疎地帯に入つて現地の農民と働いて、山掃除をしたらどうかと。先生たちもこれは良いアイデアだと思つたのですが、問題は責任なんです。誰かがケガをすると大変なものです。誰の責任となるかというのです、保護社会なんです。幸いにやつとアメリカの組織を見つけたんです。アメリカでホームレスのために家を建てるボランティア組織があるんです。これはすばらしいでしょう。まず、英語を使うでしょう、それに、建築技術の経験にもなるでしょう。ホームステイもあつて。それでこれはバスマシました。アメリカだから学校の責任じゃないからということ。二十二歳でやつと社会に出て、会社に入つても社会人ではなくて会社人間なんです。それだけなんです。定年まででたぶん社会人になつてない。どうですか？ 間違つていませんか。

■質問

その延長で日本の戦後補償の問題で、アジアにおける日本の立場というお話があつたんですけど、いまいちその話の趣旨がわからなかつたので、もう一度お聞きしたいんですけど。

たので、もう一度お聞きしたいんですけど。

■先生

■質問

例えば日本はアジアですごく感情的に孤立しているというのは、いろんな例からも聞いたことがあるんですけど、そういった中でどういうものが解決方法として考えられるか。

■先生

それは、ちゃんと「五十年前は悪いことをしていたんです、良い日本人もいれば悪い日本人もいましたよ」と、それを名前とか全部出して示すことです。農村でこういう虐殺があつた。三百人ぐらゐ亡くなつて。こちらでは二百人。こちらではガスを使いました。ごめんなさい。そういうふうには、日本は出来ませんから。ソ連で二、三年抑留されてちよつとつらい経験があつて十%の人が亡くなった。それで日本人は未だに泣いているでしょう。ソ連にやられたと言つて。中国から日本に來た強制連行被害者はどうだったか。兵隊ではなくて、普通の市民です。二年間だけで死亡率はどうだったか。四十%ですよ。強制連行者は日本の兵隊ですよ。軍人です。日本は、「ごめんなさい」と言いま

したか？ これはね、ひどいです。

まだ日本人はアジアの民族に対して優越感情があるんです。アメリカ崇拜で、この中にそれが現れていますよ。アメリカは偉い、中国は低い。これは長くは続かないよ。中国人は復讐しますよ。千年たつても覚えています。だから今のうちに何とかしないと。だから前にも言ったんですよ。ニューギニアで海軍のやり方はすばらしかった。オーストラリアよりもすばらしかった。ゴムとサイパンの農業、韓国の鉄道制度もすばらしかった。本当に良い日本人もいますよ。それを言わないと、なぜシンガポールで四万人ぐらいが、一つの世代、あの世代で殺されるべきか。事実殺されているでしょう。なぜこうなったか。日本の方から説明がありませんか？ 説明しないとシンガポール人はもちろん許さない。今の世代、次の世代、次の次の世代、日本と仲良くするのは不可能です。

前の総理大臣の福田赳夫さんが、シンガポール訪問の時にスローガンを作ったんです。これからの日本と東南アジアの関係は「心と心の触れ合い」という。すごく響きがいいでしょう。日本的でしょう。でも、シンガポール人は厳しく見ました。「heart to heart」というのは恋人同士の話であって、日本はひどいことをやってきて、いきなり恋人同士の話なんかをして、日本人は典型的な偽善者だと。有名な社説がある

んです。「heart to heart」の前に「mind to mind」「議論と議論」。なぜこういうことになったかちゃんと説明をして、それで謝罪をする。本当の謝罪。口先だけの謝罪ではなくて。その後で解決する。

お願いします。いや本当に。日本も、白豪主義とか植民地主義、あるいはヨーロッパ人がアジアで起こした犯罪のアヘン戦争等に対して反発したんです。私はその論議はわかりますよ。日本も攻撃されたでしょう。日本の港も爆撃されて、真珠湾の百年前に、アメリカの軍艦は下関の攻撃に参加したんですよ。アメリカはまだ謝罪していない。

しかし、問題は欧米人の兵隊が悪いことをしても、あるいは憲兵隊もCIAも、日本ほどエモーショナルじゃないんです。もちろん人は殺しますよ。ソンミ村のミライ事件なんかでもね。でも後で、裁判があつて、やっぱり悪いことだったと。起こしたのは悪いアメリカ人。だから、彼は刑務所に入れる。日本は、これが出来ないでしょう。こういう文化の違い、日本は家族的なんです。自分の子供が万引きとか悪いことをしても、援護するでしょう。うちの子供は、ちよつと悪いことをしたけれど、本当は良い子だという。厳しくやりたくないんですね。

日本の戦争責任者に対してそんなに厳しい態度はとりたくないんですけど、例えば、収容

所のガード、これはオーストラリアでは有名な話ですが、日本人は半分くらいかなり優しかったんですよ。後半分くらいは侍意識みたいなものがあつて厳しかったですが。一番ひどかったのは、韓国人ですよ。虐待したのはほとんど韓国人のガードですよ。ソウルでは戦争責任の裁判があつたでしょう。それで死刑になつたんですよ。捕虜を殺したんですから、当然でしょう。

日本人は、朝日新聞も含めて、あの人たちは可哀想、日本のために頑張った。謝罪しなくちゃ、補償金も払わなくちゃと。朝日新聞でさえそう言つたんですよ。おかしいんですよ。戦犯ですよ、人を殺したんです。日本のために捕虜を殺したのだから、正しいことをした？ どう思う？ これが日本のプライドですか。プライドじゃないですよ。なんであの人たちが韓国人ガードに謝罪しなければならぬのか。「まあ、可哀想」と言つたりして、家族的な態度をとっているでしょう。外国人から見れば正反対なんですよ。

■質問

それについてなんですけど、確かにほとんどの日本人は、日本人がアジアの中で一番優れているという感情を持っているのは確かだと思つてますよ。しかし、政治家の中には、もしかしたら自分は本当は悪いことをしたな、と思つ

んですけど、謝れない理由の一つとして遺族会みたいなものが政治をバックアップしているじゃないですか。そういう関係があるから、強く言えないというか。アメリカでもそうですよね、宗教団体とかで。それで日本人は感情的だからそうはなれないと思うんですが。

■先生

この前の細川さんは、ちゃんと謝ったでしょう。あの人はしっかりやった。

■質問

でもそれをもっとしっかりとやっていくには今のレベルの政党だったら何もやってくれないと思うので、もしあれならメディアでも何でも自分たちの方から、民間の方からやっていくというのはどうなんでしょうか。

■先生

村山さんはそういう提案があつたけれど、国全体で戦争の歴史を、ちゃんと詳しく勉強して発表する。それで、良い日本人と悪い日本人、それは名前までは言わなくていいんです。けど農村ではこういう虐待があつたとか、そういうことだけでも説明すればいいし、また日本人の功績もちゃんと発表する。そうしないと、みんなが私のお父さんは良い日本人と思ひ込んでしまつて困るでしょう。

とにかく、今のやり方では日本人同士では通用しませんが、外国では通用しないんですよ。だから決めてください。何が大事か。遺族会との関係か、あるいは日本の将来か。

私は、二十五年ぶりに上海に行つて戻つてきたばかりですけど、すごいですよ。日本は、あと十年、十五年たつてちようどあなたたちが三十歳、四十歳になる頃に中国と競争するのは、たぶん無理だと思います。経済の力だけじゃなくて人材の力で。彼らは、頭腦的な民族なんです。優秀な民族なんです。日本人は割合イギリス人的、アングロサクソンのなんです。よく働く、現実的なのです。百年前のイギリスと比べて、そんなに大学教育も無視されていない。有名なことわざがあるんです。イギリス帝国はイートンとハロー校の高校の校庭(グラウンド)で形成された。つまり高校時代にやつた運動で自分の性格が出来て、その人たちがイギリス帝国を作つたと。頭腦は、付随的。日本と同じように。頭腦的な能力、知識とか、学問的な能力等は軽視された。だからスポーツの成績は良かった。それで帝国を作つた。今ではイギリスの帝国はどうですか。ゼロでしょう。経済もね。もう完全にスペインの方からも追い抜かれていく。生活水準は、ドイツの半分ですよ。それで道徳が日本と同じように完全に目の前で崩れ

ている。昔のイギリスの道徳は本当に日本的だったんです。イギリスの憲法問題は全部、雰囲気と伝統。それはすばらしい道徳でしたよ。私が学生の時ですけど、みんな正直だった。それが私の世代から崩れてしまった。なぜ正直だったか？ 今はお金の為に働いている。自分のことばかり考えている。日本も全く同じ。

だから日本は、アジアに対してある意味では優れているけれど、ある意味では劣っている。だって、中国人がそんなに劣っているのなら、どうしてアメリカのコンピュータ産業がそんなに成功したのか。日本人でアメリカのコンピュータ産業とかアメリカの大学で成功した人はいますか。純粋な日本人では、一人もいないんです。日系人の中では、いますけど。アメリカ育ちでね。

中国人はほとんどアメリカの大学、コンピュータ産業などで成功しているすばらしい民族なんです。ただ問題は個人主義。自分自身のために働いている。しかし経営方式を変えて、今日はこの仕事をしないとお金を出さないと。昔は、人を協力させるために血縁関係を重視して、レストランとか小さな会社だからそれが出来た。大きな工場なら駄目ですが。今は、あるいはやめてお金のために、アメリカ的に徹底的にお金主義経営になつて生産性を上げていくのも一つの道でしょう。もつとも日本

ほどの品質管理は無理かも知れませんが。頭腦的ですからね。

だから日本がイギリスと同じ道をたどるのは寂しいね。つないでください。けれど今のペースで行くと、必ずなりますよ。今のペースで行けば。

■質問

確かに先生が言うように、日本人には足りない部分があると思うんですけど、そういうふうな自分の悪い所ばかり見て、自分を卑下している面がすごくあると思うんです。だから日本人として誇りが持てるような教育とか、誇りを持つていないが故に外国に目が向いて国内とか歴史について興味を持たず、日本語もちゃんと勉強していないような状態になっていると思うんですよ。そういう意味でもっと日本について勉強するような教育を、と思うんですが。

■先生

そう、大いにやってください。いろいろな意味で日本は模範国家ですよ。日本の文化の良さをもっと意識して欲しいんです。だって意識しなければ、その良い文化を守れないんです。今、日本は「何となく」といいう方をすれば、なぜそうなのか、あまり「なぜ」という言葉は使わないでしょう。日本人は「なぜ」正直なの

かというふうに、突き詰めて考えない。だから結果は真空地帯になりやすいんです。だから大いに勉強してください。

昔は外国人社会も「右利き」だったんです。村社会で。家族はみんな正直でしょう。法律とか宗教とか関係ないでしょう。子供の小遣いやお父さんの小遣いは盗まないでしょう。それは恥でしょう。こういう村社会は、我々外国人にも昔はあったんです。でも今は「左利き」。厳しい宗教とか、イスラム社会とか、法律に守られて初めて正直になる。けど日本は雰囲気とか伝統とかの力で正直。そちらの二つの中ではどちらが優秀？ 日本の方がはるかに優秀なんです。それを外国人にも知ってもらいたいです。けれども日本人は自分自身がなぜ正直か、わかっていないでしょう。説明するのはヘタでしょう。

そうしてその結果、外国で知られているのは、南京虐殺やシンガポールの虐殺ということ、それで日本人の評判が決められている。それで日本人は被害妄想になって、我々はそんなにひどいことをやっていないと反発している。南京虐殺は無かったと言ったりする。これは一番いけないです。日本はきちんと認めるべきです。確かに南京虐殺はあったんです。アメリカにも虐殺はあった。でも日本の場合には、ちよっとひどかったというのは、そういう理由があった

からです。また、バブル経済は外国も同じです。日本は島国だから、文明、土地神話が出来てちよっとエモーショナルになり過ぎている。しかし、このエモーショナルな文化の中にはすばらしい面もあるんです。両方を意識して、説明しないとまずいです。とにかく右手を覚えてるのは、先進国の中では日本だけです。そういう意味でも模範国家です。我々外国人ももっと勉強しなければいけない。

■質問

僕が思うには、日本人というのは、すごく専門的なことに関しては、干渉しないというタチなんです。今も自分の周りがちゃんとしていれば、例えば政治についても政治家に任せておけばいいやという風潮が高いんですよ。例えば戦争の時でも、当時の上の人たちが悪くてというように当事者に全部責任をなすりつけている。

■先生

オウム真理教もそうですね。

■質問

だから自分の周りだけで完結している。周りに対しては、すごく人格的にもすばらしいのだけれど、全員、そういう日本人が集まってくる

と、全体としては間違った方向に行ってしまうという可能性がすぐあると思うんですよ。

■先生

まあそれは、良い面もあれば悪い面もあるということですよ。我々、男性として悪い面もあるし良い面もあるでしょう。女性が持っていない良い面があるでしょう。それを意識して少し威張っても良いでしょう。女性もその逆で同じことがいえる。それと同時に自分の悪い面ももう少し意識すれば。

とにかく、右手を覚えている先進国は日本だけ。昔は、イギリスにも右手の要素がちよつとあつたけど、今はないです。これは本当にすばらしいことです。私にとって日本は大きな実験室みたいなものです。研究室みたいで何でも面白い。我々外国人にとっては、新しい材料になる。政治でも外交でもね。

■質問

いろいろと良い面と悪い面があるということなんですけど、ただその歴史の問題に関していえば、今、悪い面だけが強調され過ぎていると思うんですよ。日本の教育を考えれば。もちろんそういう悪い侵略行為があつたのは事実ですけど、さつき先生がおっしゃったようにいろいろ良い面もあつたわけですよ。それに關

して悪い面だけが強調されている故に、教科書とかの部分では日本が悪いことをした、悪いことをしたというそれだけなんです。だからそうじゃなくて、日本からも良いことをしたということも書かないと、やっぱり悪いことだけでは、興味とか関心が湧いてこないと思うんです。だからもちろん、悪いことをしたのだけれど、良いこともしていたんだということだつたら外国に対しても素直に謝れるんだと思うんですけど、日本が過去にやったこと全てが悪いことであつたと言われると、そんなことはないんだという気持ちかややはり心の中にありますから、日本人は素直に謝ることが出来ないのだと思うんですけど。

■先生

なぜこういう教科書の議論になつたかといううと、悪い面をよけいに否定しようとした、あるいは無視しようとしたからですね。それで、進歩的な学者や教育者の方からも反発があつた。そうではなくて、事実を認めなさい。教科書通りだったので。けれど同時に、先ほど言われた意見に同感ですよ。日本人のやつた良い面も書けば良い。それでなぜ同じ日本人なのに、悪いことをやりながら、良いこともやつたのかを分析すべきです。でもそういう説明が出来る人がいないんです。私は出来ますよ。やつ

てあげましょうか。

■質問

先ほど捕虜の収容所の話が出てきたんですけど、そういうことに関して欧米一般の人たちが認職を持っているということは、考えにくいんですね。そしてアメリカが日本の中国侵略を攻撃しているんですが、アメリカが二十世紀の初頭に南米に対してやったことは明らかに侵略行為なんです。それでもこういうことはあまり歴史の表には出てこないんです。

僕個人の考えとしては歴史は常に勝利者やマジヨリテイの手によって、その人の論理によつて書かれていると思つてはいるんですが、先生は、そのことについてどう思つていますか。

■先生

例えば、アメリカのフィリピンでのひどい虐殺があつたんです。これについてはアメリカの教科書はさまざまなんです。国家が決める教科書はないです。アメリカは、学校が教科書を選ぶんです。いろいろと探せば、ああいうひどいことを説明する教科書がありますよ。でも使っているかどうかは別なんです。あまり使っていない。でもそういう本とか研究はやつてはいますよ。日本にはないです。そこが違つて

す。

■質問

確かにそういう教科書もあると思うんですけど、アメリカ人が一般的に自分たちの国が侵略行為をしていたことを認識しているかというところではないですかね。

■先生

一般的にはね。ベトナム戦争は半分半分だしね。しかし、アメリカの将来にとって、ベトナムとの関係が大事であれば、もう少しアメリカが反省して認めてくれると思いますよ。日本にとってアジアとの関係は大事ですよ。その場合はちよつと現実的になって、アメリカのやったことや、イギリスのアヘン戦争とかの話はやめて、自分自身のことを、まっすぐ見てほしいですね。そういう自分の民族がやったことをね。もちろんアメリカ人もひどいことをやったけれども、日本ほどひどくなかったんです。日本は良いことは良かった。でもアメリカは、日本ほども良くもなかったけれど、でも日本ほど悪くもなかった。そういう悪いことは、アジアの人たちはみんな覚えていますが、日本の軍隊は何をやったかを。ミライ事件があったでしょう、ベトナムで。日本の軍隊は、どの農村であつても攻撃するとそれと同じであつた。必ず、一

三百人が殺されてしまう。それに対して抵抗すれば平気で毒ガスを使う。ああいう人たちに対して、そういうことをしでかした日本人たちに対して皆さん、その日本人に対して何か同情とか、尊敬はある？ 責任は問いたくない？

■質問

いや、責任は取るべきです。

■先生

そうですね。でも、あなたたちはそれをやっていないでしょう。アメリカも悪いことをやったと言うけれど。

■質問

個人のレベルでそう考えてはいても、国全体が国として謝るといことは、日本ではないですよ。そういうことを具体的に、現実的にするために、いったい何をすべきなのかというのを考えると私たちは非常に無力なんです。そういうことに関して先生には何かアドバイスがありますでしょうか。

■先生

全面的に謝る必要はないです。なぜそういう戦争が起こったか？ 我々、欧米人のアジアへの進出、侵略への反発だったんです。だから、

最初に悪かったのはこっち。それで、日本の行動によって自由になった民族、例えばインドネシア、マレーシアそれと同時にグアム、サイパンはすばらしい農業経済が出来たんです。サトウキビ経済。今、サトウキビ全然減っていないでしょう。けれど同時にそういう悪いことはたくさんあつたんです。こういう日本人がなぜこんなに悪いことをしたか、というのは、マインドコントロールなんです。オウム真理教みたいなね。「我々日本人はそういう欠点がある、ごめんなさい、これから、もつとそのことを意識して二度とそういうことは起こさない」と言ってくればいいんじゃないか。エモーションな民族だから、すばらしい面があるとすれば悪い面もある国です。それだけです。

私は欧米人として、教養のある欧米人は、アヘン戦争とかフィリピンの虐殺とかは全然誇りとは思っていないです。

■質問

一般大衆のレベルまで、そのことが浸透していますか？

■先生

それはいいです。でも日本の場合は教養のある人も、一生懸命戦争責任を避けて通ろうとしているんです。

■ 司会

そろそろ、時間となりましたので、この辺りでお開きにしたいと思います。先生が一つ残してくれたものとして、今までの日本人の良さは、正直さではないか。それは今までは空気で伝わっていたけれども、しかし今や活字になってしまいました。活字というのは結局「言葉」。議論の必要性が出てきたということではないでしょうか。これというのは僕たちの世代、モノがたくさん溢れ、豊かになった証拠なのではないかと僕は思います。

— その辺のお話を、どんどん僕たちの世代、今の大学生が考えていくべきことだし、その一環として今日のような一日を持ったことは非常に有意義なことではなかったかと思えます。

クラーク先生、本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

※当DVD収録の講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。